

第5期 令和4年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第5回全体会 議事概要

日 時 令和4年7月8日（金）

場 所 産業会館（B I Z新宿）3階 研修室A

出席委員 毛受委員、稲葉委員、小林委員、郭委員、長谷部委員、岡田委員、松田委員、
金（勲）委員、ドゥラ委員、盛委員、陳委員、タイン委員、原田委員、本多委員、
山口委員、守重委員、伊藤委員、國谷委員 18名

欠席委員 申委員、レックス委員、李委員、ブサン委員、奥田委員、センブ委員、朴委員、江副委員、
鈴木委員、金子委員、安藤委員、井上委員、内田委員 13名

1 開会

2 議事

報告書（案）について

（1）前回の審議からの修正について

前回の審議で出された報告書素案に対する主な意見と報告書案への反映状況について、事務局から説明を受け、確認した。

（2）第5章提言について

会長から、第5章提言の説明を受け、項目ごとに審議した。

①外国人の受入れにあたって

- ・第一部会のまとめ（1）にある「アンケートなどによりニーズを把握する」と「しんじゅく多文化共生プラザを区役所に配置」を提言に入れてはどうか。
- ・「ニーズをより把握することに努める」という趣旨の内容を「おわりに」の部分に入れるのはどうか。
- ・ソフトウェアとしての多文化共生プラザの役割や使い方等を考えていかなければならない。
- ・しんじゅく多文化共生プラザにプロパーの人材を育ててほしい。また、地域の外国人の団体や地元の住民と人間関係が作れるようなスタッフを育ててほしい。
- ・「新たな外国人の受入れ」は非常にタイムリーな議論なので、1の「外国人の受入れにあたって」を「新たな外国人の受入れにあたって」としたほうがよい。

②外国人が地域で暮らすために

- ・学生にとって一番身近なのは日本語学校や専修学校であり、それらの機関がどういう位置づけでどういう役割を担っているのかということを確認する必要がある。
- ・外国人が来るところに赴いて相談を受けるようにすると相談者はとても利用しやすいので、こうした内容を提言に入れてはどうか。
- ・既存イベントの活用の部分に、外国人のための無料法律相談や外国人も日本人も参加できるコーナーを作るといった表現を入れてはどうか。

- ・交流の機会や場所を新宿区が提供したり、企業や外国語の教室を運営する組織等に場を提供してもらったりして交流会等を開催するとよい。
- ・保護者同士の交流機会の創出が求められているという点について、日本人の子育て世代の方々がそういう認識を持っていることが非常に重要なので、日本人にも働きかけることが必要である。
- ・日本人の保護者と外国人の保護者とを分けて考えず、既存の保護者の集まりに、外国人の保護者をつなげていくという考え方がよい。
- ・保護者（特に日本語を話せない人）が日本人で構成される保護者の集まりに参加するのは、現実的に考えると非常に難しいということは、理解しておく必要がある。
- ・子育て世代の人たちに子育て支援に関する資料を配るなどの支援を積み重ねていくことを通じて、子育て世代の生活を豊かにしていくとよい。
- ・「子育て世代」を「妊娠、出産、乳幼児期」と「学齢期」というライフステージに分けて審議を行ってきたので、提言でも同じように分けて記述するほうがよい。
- ・子育て世代が求めている情報には、手続きに関する情報もある。
- ・継続的に参加したくなるという部分について、ニーズを拾って次に生かしていくという内容を追加するとよい。

③日本人と外国人がともに作る地域社会に向けて

- ・新しく暮らし始めた外国人を受け入れて生活者として支えていくためにということ以外にも、日本人と外国人がよりよい関係を築いていくために、という言葉も入れるとよい。あわせて関係づくりのイベントについてなどの項目も入れるとよいのではないかな。
- ・若者に多文化共生推進というテーマを知ってもらうことが重要である。例えば若者を対象に多文化共生に関する動画のコンテストを開催し、表彰するのはどうか。
- ・すでに地域で活躍している外国人の方々との連携という内容を入れてはどうか。
- ・区役所職員の多文化共生意識の向上を図っていく必要がある。
- ・審議した内容や提言を積み上げて発展させていくとよい。
- ・今までの提言について、実現できたものとできていないものに整理する必要がある。
- ・全体的な大きな枠組みを検討していく必要があるのではないかな。

3 次回の日程

令和4年8月29日(月)

4 閉会